

乙 第 号

藤谷良太郎 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

報告番号	乙第	号	氏名	藤谷良太郎
論文審査担当者	委員長		教授	奥地一夫
	副委員長		教授	吉川公彦
	委員		准教授	赤羽学
	委員		准教授	面川庄平
	委員		教授	田中康仁
				(指導教員)

主論文

Predictors of Distal Radioulnar Joint Instability in Distal Radius Fractures

不安定型橈骨遠位端骨折に合併する橈尺靭帯損傷の予測因子

Ryotaro Fujitani, Shohei Omokawa, Manabu Akahane
Akio Iida, Hiroshi Ono, Yasuhito Tanaka

The Journal of Hand Surgery
Vol 36A, 1919-1925
2011, December published

論文審査の要旨

橈骨遠位端骨折は高齢者に多く、その手術成績は治療方法や固定材料の発達に従い飛躍的に向上している。しかし、周辺の軟部組織損傷を合併した時には治療成績の不良例もみられ、慎重な治療が求められる。その中でも橈尺靭帯の損傷は遠位橈尺関節の不安定性を生じ、修復しなければ予後不良である。本研究は橈骨遠位端骨折に合併する橈尺靭帯損傷の術前予測因子を、前向きに検討したものである。

2002年～2007年に観血的整復術を施行した163例の不安定型橈骨遠位端骨折に合併する橈尺靭帯損傷を術中直視下に確認し、正確な頻度を求め、予測因子についてはロジスティック回帰分析をもちいて解析した。遠位橈尺靭帯損傷のあった症例は11例(6.7%)で、最も有用性のある予測因子は、レントゲンPA像でのradial translation ratio ($p < 0.01$, odds比1.5)であった。さらにROC曲線から、遠位橈尺靭帯損傷を診断するためのradial translation ratioのcut off値は15%で、遠位橈尺関節の開大距離が3mmに相当するとの結論を得ている。

本研究は、不安定型橈骨遠位端骨折に合併する橈尺靭帯損傷の頻度に示すとともに危険因子を明らかにした研究であり、整形外科、特に手外科学分野の進歩に寄与するところ大であり、博士(医学)に値すると考える。

参 考 論 文

1. Reliability and clinical importance of Teardrop Angle measurement
in intra-articular distal radius fracture
Ryotaro Fujitani, Shohei Omokawa, Akio Iida
Shigeru Santo, Yasuhito Tanaka
J Hand Surg 37A:454-459, 2012
2. 中手骨頸部骨折に対する治療—髓内釘とプレート固定術の比較—
藤谷良太郎、面川庄平、飯田昭夫、土肥義浩、大川卓海、奥田真義
整形・災害外科 53:391-396, 2010
3. 遠位橈尺関節内に及ぶ橈骨遠位端骨折の治療成績—術前 CT を用いた術後成
績の検討—
藤谷良太郎、面川庄平、飯田昭夫、大川卓海
日手会誌 25:827-830, 2009
4. シリコン製舟状骨の破碎脱転による SLAC wrist の 2 例
藤谷良太郎、面川庄平、大川卓海、奥田真義、金子康司
中部整災誌 51:307-308, 2008
5. Screw fixation for scaphoid fracture: A comparison of volar and dorsal approach
Ryotaro Fujitani, Shohei Omokawa, Yoshihiro Dohi
Hiroshi Ono, Kazuhiko Furuta
Proceeding the 10th Congress of the international federation of societies
for surgery of the hand 183-187, 2007

6. 手術的治療を行った橈骨頭骨折の合併損傷
藤谷良太郎、面川庄平、奥田真義、大川卓海、小野浩史
日本肘関節学会雑誌 14:204-206, 2007
7. 舟状骨骨折に対する掌側進入と背側進入のスクリューの比較
藤谷良太郎、面川庄平、土肥義浩、小野浩史、古田和彦
日手会誌 23:270-273, 2006
8. 進行期 Kienbock 病に対する腱球移植、仮・舟状大菱形小菱形骨(舟状有頭骨)
間固定術の成績
藤谷良太郎、面川庄平、土肥義浩、大川卓海
日本肘関節学会雑誌 13:75-76, 2006
9. 進行期 Kienbock 病に対する腱球移植、仮・舟状大菱形小菱形骨(舟状有頭骨)
間固定術の成績
藤谷良太郎、小野浩史
別冊整形外科 48:99-105, 2005
10. 掌側 Symmetry Plate を用いた橈骨遠位端骨折の治療成績
藤谷良太郎、小野浩史、前川尚宜
日手会誌 21:496-500, 2004
11. 進行期 Kienbock 病に対する腱球移植、仮 STT (SC) 固定術の成績
藤谷良太郎、小野浩史、水本茂
日手会誌 19:475-478, 2002

12. 透析患者における手根骨囊腫状病変の検討

藤谷良太郎、小野浩史

日手会誌 18:706-709, 2001

13. 足関節鏡に対する軟性牽引用装具の使用

藤谷良太郎、熊井司、平岡修治、島屋正孝、谷口俊四郎

中部整災誌 40:1447-1448, 1997

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに整形外科学の進歩に
寄与するところが大きいと認める。

平成 24 年 5 月 8 日

学位審査委員長

救急病態制御医学

教 授 奥地一夫

学位審査副委員長

画像診断学・低侵襲治療学

教 授 吉川公彦

学位審査委員

健康政策医学

准 教 授 赤羽学

学位審査委員

運動器再建医学

准 教 授 面川庄平

学位審査委員（指導教員）

運動器再建医学

教 授 田中康仁